

本日、皇太子殿下の御臨席のもと、「土木学会創立 100 周年記念式典」が開催されましたこと、大変、光栄に存じます。ご多忙の中、国内外から多くの方々にご参列いただきまして、誠にありがとうございました。下村文部科学大臣、北川国土交通副大臣、ASCE Stevens 会長からは丁寧なご祝辞を賜り、厚くお礼申し上げます。ご講演いただきました山崎先生、ビデオメッセージをいただきました毛利委員長には深く感謝申し上げます。

先ほど磯部会長より披露されました「土木学会創立 100 周年宣言」に示されていますとおり、土木学会は、持続可能な社会の礎を築くことをその使命であると認識し、次の 100 年に向けた新たな一歩を踏み出します。そのため、土木学会では、次の 100 年の最初の 5 年間の行動計画である JSCE2015 を今月策定いたしました。

JSCE2015 では、いま土木界が果たすべき重要課題として、東日本大震災からの復興と、原子力発電所事故による汚染物質処理のために土木技術を結集していくこと、高齢化するインフラの機能維持や改善とその更新、地球規模の気候変動や激化する自然災害への対応、さらには少子高齢化する社会に適した都市、地域づくりなどをあげています。

これらを実行するにあたっては、技術者や研究者が技術力の研鑽に励むことはもちろんのこと、これまで以上に土木技術者が市民の皆様とともにインフラの維持や更新、あるいは国土の在りようについて共に考え、行動していく必要があります。さらには、日本が築いてきた土木技術の国際的な移転と国際貢献の推進も、われわれの責務であります。土木学会ではこれらの課題に対するアクションプランのもと、他機関・他分野との連携を強め、多岐にわたる土木学会内の活動を有機的に結合することにより、これを段階的に実行に移してまいります。

土木学会は、100 年前の土木学会創立時の精神と社会的使命を引き継ぎ、100 年という歴史の重さを認識して、100 年後の社会や人々に対して責任をもつという気概のもとに、一步一步着実な活動を進めてまいります。どうぞ今後とも土木学会活動に対するご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして「土木学会創立 100 周年記念式典」を閉会とさせていただきます。ご参列いただきました皆様、また、本記念式典の準備、開催に尽力されたすべての方々に対し、改めて心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。